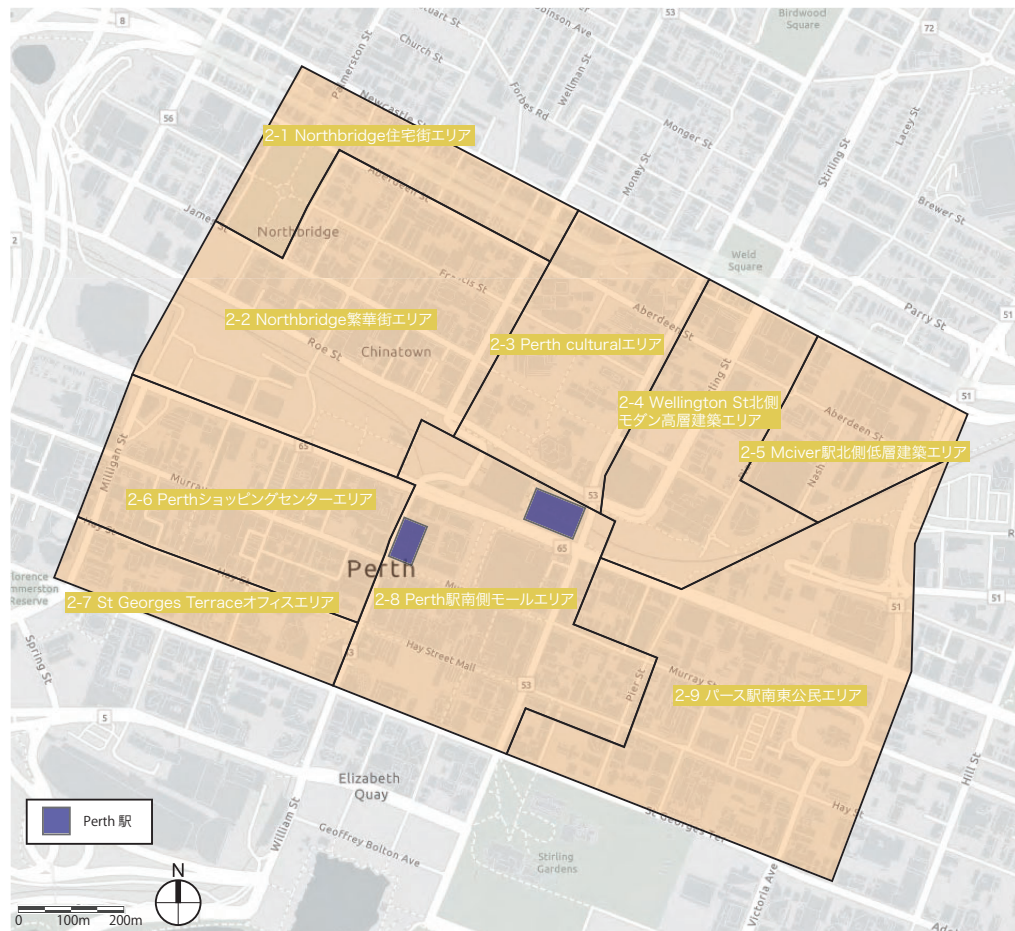


2 Perth

パースはオーストラリア・西オーストラリア州の南東に位置し、同州の州都であり最大都市です。パースという名前は1829年にスコットランド人のジェームズ・スターリング総督が植民地大臣であるジョージ・マレー卿を称え、彼の出身地のパースから命名されました。この地域は起伏が少ないことが特徴で、パース駅周辺に歴史的な建物やウォールアート、路地など様々な要素が混在しています。



2-1 Northbridge住宅街エリア

2-2 Northbridge繁華街エリア

2-3 Perth Culturalエリア

2-4 Wellington St北側モダン高層建築エリア

2-5 Mciver駅北側低層建築エリア

2-6 Perth ショッピングセンターエリア

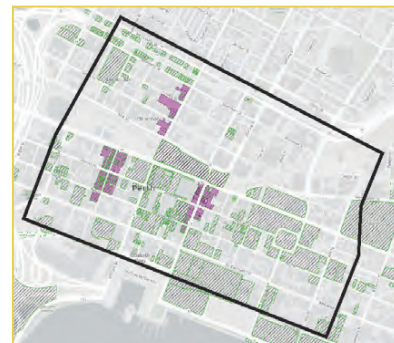
2-7 St Georges Terraceオフィスエリア

2-8 Perth駅南側モールエリア

2-9 Perth駅南東公民エリア

エリアの概要

歴史的な街並み



City Of Perthの遺産エリアと分布図

歴史を感じる建築物

1829年にイギリス人入植者により設立されたパース市には、古い建物が数多くあります。このエリアはパース市庁舎、州庁舎、セントメアリー大聖堂などがある歴史的な中心部であり、これらの建築物は19世紀後半から20世紀初頭の建築の街並みを形成する要素となっています。

多様な建築様式

イギリスの雰囲気を感じるゴシック建築やバロック建築を用いた建築物があります。多くの公共の建物にはブルータリズムの建築が用いられました。20世紀には1階に店舗、2階にはオフィスや住宅の建築が見られるようになりました。

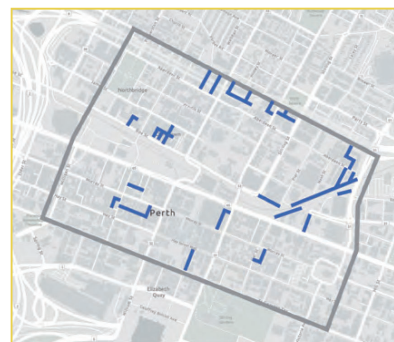


【2-6 Perth ショッピングセンターエリア】
1階に店舗、2階に住宅の建築



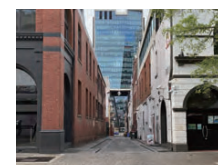
【2-3 Perth Culturalエリア】
西オーストラリア州立博物館

路地

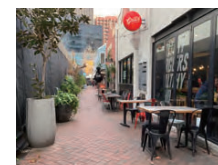


路地の分布図

パースには直線的に通る車の通行可能な道のほかに、歩行者しか入れない路地が多く存在します。路地にはお酒の飲める飲食店や雑貨店などがあるショッピングセンターと呼ばれるものと、店舗がなく、通行のためのものがあり、後者には多くのウォールアートが描かれています。それぞれの路地が異なる特色を持っており、外からは見えないものの、入れば全く異なる雰囲気を持つ路地が数多く存在しています。

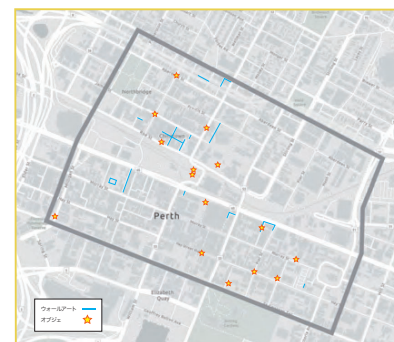


【2-6 Perth ショッピングセンターエリア】
通路としての路地



【2-6 Perth ショッピングセンターエリア】
路地に店舗が集中するシャフト・レーン

アートの街並み



ウォールアートとストリートオブジェ分布図

ウォールアート

チャイナタウンを中心にウォールアートが広がっています。洗礼されたウォールアートは空間を彩る要素の一つとして街の景観に大きな影響を与えています。



【2-2 Northbridge繁華街エリア】
路地裏にあるウォールアート

ストリートオブジェ

個性的で芸術的なストリートオブジェが多く存在します。オブジェは東西南北に直線的に伸びるストリートの景観のアクセントとなっているだけではなく、空間を区切るポイントとしての役割にもなっています。



【2-3 Perth Culturalエリア】
大学前にあるストリートオブジェ